

### ともに学び、歩む

### 地域と大学が連携、新たな時を

東日本国際大学経済情報学部准教授 竹内 茂

本学では、「地域に根ざした大学」、「地域とともに発展する大学」を実現するために各種活動を実施しております。今回はその紹介と地域の皆様が活用して地域経済の活性化することを願っております。

経済学部時代から「地域経済・福祉研究所」を開設し、地域経済の分野において、実践的な研究を行うことを目的として、いわき市、いわき商工会議所、いわき経済同友会等と提携し、地元経済発展のために共同研究などを行い、機関紙「地域」の発行、地域経済活動、まちづくり活動、まちのイベントへの参画、参加等にも取り組んでおります。また、市民解放授業(学生と共に学ぶ)や出前講座を開講しております。平成19年11月には、いわき駅前にラトブがオープンすると同時に、東日本国際大学・いわき短期大学サテライト・キャンパスを開設しました。キャンパスでは、「たずねるキャンパス」、「知る・学ぶキャンパス」、「育むキャンパス」を柱に進めております。「たずねるキャンパス」では、市民の皆様がサテライト・キャンパスにたずねて頂き、「情報」、「地域」、「福祉」の分野別に、相談やワンポイントコンサルを行う事業です。「知る・学ぶキャンパス」では、「世界金融危機といわき経済」、「いわき学」“裁判員制度”、“市民EXCEL実践講座”等講演会、各種講座を開催する事業です。「育むキャンパス」では、“子育て相談”、“1時間程度の預かり保育”を行っている事業です。市民の皆様、一度、サテライト・キャンパスにお立ち寄りください。

私の専門分野の“情報”について取り組みについて紹介します。平成19年4月に経済学部から経済情報学部に変更いたしましたことからわかるように、今日の社会では情報分野の知識習得、知識活用が不可欠になってきております。すなわち、「経済」と「情報」を融合させて地域で活躍できる学生の育成に努力しております。しかし、一方、社会でご活躍の皆様には、「情報」を学ぶ場がないのも現実です。職場にはパソコンが導入され、業務ソフトで業務が遂行されております。しかし、業務ソフトでは対応できない部分を参考書籍等見ながら行っているのが現実です。データを情報化するためにどのようにするかを理解するためには、多くの経験を積むしかないのであります。そこで、市民の皆様には“情報”を理解していただくことを目的に、平成17年1月から年間、2、3回市民EXCEL実践講座を開講しております。この講座では、パソコン習得の近道は、“真似る”、“継続する”、“応用力を活用する”、“創造性を発揮する”を柱に進めております。特に、“真似る”では、参考図書を真似るや業務やプライベートで使用しているものを真似ることで技術習得になってきますが、それでも困った時必要な“良き相談相手”を見つけることです。その良き相談相手になればという思いでこの講座の開講に至っております。受講者の中には、三年間お付き合いをさせていただいている市民の方もおります。継続して努力されておりますので、技術力、情報に対する取り組み方に大きな進歩が見えております。お困りの方、一度、お立ち寄り頂き現状を切り開く行動を起こしてみることをお勧めいたします。

現在の日本の経済は、先行きの見えない状況になっております。地域経済もその影響を受けております。こんな時こそ、地域と大学が連携し、情報分野の活用によって、データを情報に変え、その情報を的確に読み、今後を推測することで、新たな歩む道を選択するような取り組みが必要かと考えます。地域と大学が、ともに学び、ともに歩むことで、ものごとの見方がチェンジし、地域に新たな道が切り開かれることを願っております。